

翔陽高等学校 平成28年度学校評価計画表

1 学校教育目標
心豊かで、活力にあふれ、かつ礼節をわきまえた個性ある生徒を育成し、豊かな教養・専門的知識・技術を高めて、地域社会が求めている人材の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 総合学科だからできる幅の広い教育活動を通して、地域に貢献できる人材を育成する。 (2) 全ての教育活動を通して規範意識を高め、自信と誇りを持った生徒を育成する。 (3) 進路目標達成のためにキャリア教育を推進し、望ましい職業観・勤労観を育成する。 (4) 人権尊重の精神を養い、互いの個性を尊重し、自他を大切にすることを生徒を育成する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	総合学科の特色づくり	総合学科の工夫・改善	○将来に向けた総合学科の在り方の検討	○企画委員会で、今後の総合学科の方向性について検討	A	○校務分掌のスリム化を図り、総合学科運営部を廃止したにもかかわらず、教務部担当者を中心に総合学科の在り方について方向性を示すことができた。また、県内の総合学科高校の協議会を立ち上げ、連携を深めることができた。
		総合学科のPR	○定期的な情報の発信	○HPの随時更新 ○パンフレットや広報誌の活用	A	○特に、HPの更新回数を大幅に増やし、総合学科としての本校のPRができた。結果として、高校入試において志願者増につながった。
	キャリア教育の推進	望ましい職業観・勤労観の育成	○進路意識の啓発	○社会人講師による講演会の実施 ○進路体験発表、キャリアガイダンスを実施	B	○2年次、3年次とも本校配置の「熊本しごとコーディネーター・キャリアサポーター」や労働雇用創生課の「ジョブカフェ・サポーター」を積極的に活用した。1年次主催のキャリアガイダンスは本年度、職業・職種ガイダンスに改編・改善し実施する予定である。(2月末予定)
			○将来を見据えた適切な科目選択	○系列ガイダンスを実施	A	○生徒の系列選択をより具体的にするため、1日をかけ1年次生に実施。非常にわかりやすく丁寧な説明となった。(昨年より実施でさらに改

			○科目「産業社会と人間」の再点検及び活性化	○体験型学習の充実 自らの進路選択との関係性を明確にした班別プロジェクトにする	A	善させた) ○1年次生の班別プロジェクトについて、本年から上級学校訪問を除外し、事業所訪問のみに変更し実施した。事業所の社会的貢献や社会的責任、働く人の勤労観・職業観を知ることがを事前事後含め一斉に指導できて非常に成果があった。
		キャリア教育のシステム化	○インターンシップの活性化	○全職員の協力による事前事後指導の充実 ○「キャリアファイル」の活用	B	○本年度は地震の影響で実施が危ぶまれた。しかし、時期を変更して完全実施することができた。地元事業所のおかげであるとともに期待のあらわれである。事業所アンケート、生徒アンケート共におおむね良好である。地域に根ざした教育が実践できる取組である。
			○デュアルシステム、総合研究の活性化	○成果発表会の開催 「総合的な学習の時間」で発表会を実施 ○デュアルシステムの推進 多くの系列参加を推進	B	○今年度からデュアルシステムは工業、農業系列にも拡大を行った。成果が上がる実務訓練となった。課題としては来年度以降人数が増加すると思われるが人数の調整等も必要と思われる。 ○「総合的な学習時間」成果発表会については各系列段階での発表に飛躍的な充実がみられる。アクティブラーニングの筆頭であり生徒の表現・技能能力の向上にもつながっている。
	開かれた学校づくり	学校評価の着実な実施	○評価資料の収集と課題の明確化	○生徒・保護者へのアンケート実施(11月末まで)、回収率95%以上にする ○教育懇話会委員による学校関係者評価を2回実施	B	○96.4%の回収率を達成し、正確な評価資料の収集ができた。 ○教育懇話会における学校関係者評価に基づき、学校運営の改善を図った。(2回目は2/17)
			○目標や評価結果の公表	○学校HPに掲載	B	○第2回教育懇話会の後、学校HPに掲載する予定である。
学力向上	学力の向上	アクティブラーニング(AL)型授業の推進	○AL型授業実践者の増加	○AL型授業の実施状況調査と課題の分析	B	○今年度は教育センターや他校から講師をお招きして研修を行ったり、推進チームを作り啓発に努めたりした結果、取り入れているまたは取り組みたいという声が多く聞かれるようになった。しかし、改善の余地はまだ残されており、

			○公開授業校内参加率90%	○授業改善のヒントを配布		手法や評価については今後も研修などの取り組みの必要性を感じている。
					B	○3月までに年2時間以上の参観を職員には義務づけている。他の授業を見ることで授業改善のヒントも得られ、また授業者も改善点の指摘を受けることができる。まだ参加率90%まで行かないが、年度末までの期間には達成できるよう、さらなる啓発を実践していく。
	学習習慣の確立	○家庭学習2時間 ○成績不振者前年度1割減		○学習時間調査や生活実態調査を実施し、個人面談週間で活用 ○関係保護者会の活用と個人面談の実施	C	○長期休業中などは適切な量の宿題・課題を与えることができている。しかし、日頃の家庭学習は生徒によって個人差があり、それが成績にも如実に表れている。本校生徒が夢を実現するためには、日々の家庭学習習慣の定着が不可欠であり、それが成績不振者の減少（関係保護者会参加数の減少）にも、進路選択にもつながることなので、次年度は重点的に強化すべき所と考えている。
	読書習慣の確立	○朝読書の定着 ○図書館未利用生徒の前年度比1割減 ○図書館の復旧		○読書週間の設定 ○出張図書の実施 ○朝読書用図書の積極的購入 ○書籍内容紹介POPの作成 ○図書館講座の実施 ○倒壊書架の補充	A	○朝読書の定着に向けて、図書委員会による出張図書や朝読書コンクールを実施した。1年生は全体的に積極的に取り組み貸し出しも多かったが、2年生はクラス集団や職員の意識によって取組に大きな差が見られるという課題が残った。 ○季節に応じて特集を組んだ図書のPOPを作成し生徒が入室しやすいような雰囲気づくりに務めた。 ○読書週間におけるスタンプラリー企画（図書返却時に押印）や図書委員会による返却ボックス制作、図書館講座（インテリア・モビール制作、クリスマス・カード作成）の実施などにより、図書館の未利用生徒は前年度比11.3%減少した。 ○4月の地震による倒壊書架の補充のため、廃材利用の試みや廃校及び廃校予定の高校からの

					書架の受領、文化祭での募金活動など、努力を重ねた。	
進路指導	進路保障	進路目標の達成	<ul style="list-style-type: none"> ○就職目標 進路目標の100%達成 県内就職率80%以上 公務員20人以上 ○進学目標 国公立大学3人以上 公立大学校等（高専含む） 5人以上 ○地方創生への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員面接2回実施 ○専門系列と2・3年次との進路会議 ○模擬面接の充実 ○作文指導の充実 ○進学係・公務員担当による面談の充実 ○関係諸機関（役場、県北本部）との連携 ○保護者への啓発 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本県内事業所の就職率は81%、県外事業所19%であった。昨年より本校保護者に啓発を行い、また、熊本県の地方創生啓発事業についても生徒が積極的に参加した。配付資料にも丁寧な保護者説明を行った。公務員の延べ合格者は、36名であった。念願の熊本県警にも正式内定を1名出した。 ○国公立大学にも5人合格できた（過去最高）。年次団を中心とする早めの取組が効を奏した。 ○地方創生の取組は初めての取組であった、熊本県県北広域本部主催の「地方創生進路ガイダンス」に2年次生生徒全員参加した。来年度の進路実現の一助となった。
		早期離職の防止	<ul style="list-style-type: none"> ○適応指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアサポーターとの面談充実（2回）により、ミスマッチ無い受験 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○過去3年以内の離職について、進路指導部に情報があがれば必ず生徒に連絡をとり必要あれば責任をもって指導を行っている。今年度に限っては、地震の影響で求人も多いが、離職・転職が多いようである。引き続き本校卒業生の若年者の就職定着促進に努める。
		上級学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○アドミッションポリシー及び生徒の研究テーマ調査 ○保護者の進路意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム熊本や大学主催のオープンキャンパスへの参加 ○上級学校訪問等の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○進学ガイダンスやオープンキャンパス等の参加等の回数を増加させた。進路意識を高める成果は上がった。また、保護者の進路指導への満足度も高い。 ○課題としては保護者の進路意識の向上が課題である。学校進路行事への参加が少ないので保護者への伝達方法や時期の再検討、魅力ある取組も必要である。
		基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○教務部との連携（目標を設定した効率的な学習） 	<ul style="list-style-type: none"> ○チャレンジタイムの充実 		<ul style="list-style-type: none"> ○今年度、成果としてチャレンジタイムは軌道に乗せることができた。来年度は担任がこのチャレンジタイムを指導できる体制作りをすることが課題である。

					B	○課題として、保護者評価「子どもさんは、家庭で予習復習・宿題・課題等の学習に取り組んでいますか。」のみが平均値を下回っている。「毎日1時間以上家庭学習をする、させる方針」であるが不十分。教務部・進路指導部で具体案をまず出して、各教科、科目で毎日の宿題やその評価についての組織・系統だった再検討が必要である。
生徒指導	生活指導	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○整容指導の徹底 ○特別指導生徒数、前年度（28人）比50%減 ○転退学者数全体1.5%以下 ○5S活動の推進 ○マナーの向上 ○盗難ゼロの学校 ○無断アルバイトの根絶 ○2重ロック率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の共通理解と生徒・保護者への周知徹底 ○年間7回の容儀検査の実施 ○段階的指導の推進 ○教育相談との関わり ○登校指導（あいさつ、容儀、時間厳守）及び巡回指導 ○全校集会での啓発 ○交通委員会（生徒、職員）による啓発と点検及び事後指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○整容指導については容儀検査当日のみ正す生徒がおり継続的に生活指導票の活用を徹底する。 ○2月8日現在で特別指導生徒人数は16人で4割の減少である。 ○無断アルバイトについては5人、アルバイト申請生徒数は昨年度と今年度27人である。 ○自転車の二重ロックは常に100%に近い施錠率を継続している。
		交通安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりが、交通安全を意識した行動を実践して生徒が第一当事者の事故ゼロを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全講話、通学方法別集会 ○生徒が主体となった単車通学生への実技講習及び安全指導 ○自転車通学生への実技講習及び安全指導 ○交通関係LHR 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車事故は14件で昨年度より6件増加している。入院を要する大きな事故もあったが、注意力不足等の事故も多発した。スマホ使用やスピードの出し過ぎ等の危険運転をしないよう注意喚起を行う。
		自主性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動の活性化 ○主権者教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒総会の実施 ○18歳選挙権に関する講演会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○総会、選挙権は初年度であったが大変有意義に実施することができた。 ○主権者教育として、選管と連携した模擬投票等の取組を実践した。
	ボランティア活動の推進	心豊かな生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本地震における地域災害ボランティアへの参加 ○一人一回ボランティア参加 ○翔陽「絆プロジェクト」のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア委員会活動の活性化 ○タイムリーな活動紹介と募集 ○東北大震災被災地との交流事業 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本地震により、多くの生徒がボランティアの意義を理解し、地域や各団体で行われた多くのボランティア活動に参加することができた。 ○「絆プロジェクト」として、福島を訪問し、相手校と交流を深めた。

人権教育の推進	人権意識の向上	確かな人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○人権問題についての正しい理解と認識を深める ○転退学者数減少を念頭においた進路保障の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な職員研修の実施 ○校外研修への参加 ○生徒人権集会、人権教育LHR、人権教育講演会の実施 ○相談室だより発行による啓発 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○レポート研修や解放保護者会との交流学習会で、自らを語り、自己の解放に繋げ、学び合うことができた。 ○ハンセン病差別・水俣病差別の実態について、語り部から学び、自らの課題として受け止めることができた。
	教育相談	教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒支援体制の確立と強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年、保護者、他の職員等との情報の共有化 ○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、専門機関との連携 ○特別支援個人計画策定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎週火曜5時間目保健室との情報交換をした。 ○地震で被災した生徒や発達障がいをもつ生徒へのスクールカウンセラーによるカウンセリングは生徒の心の安定に繋がった。
	命を大切に する心を育む指導	自他を愛する生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「生命の大切さ」の指導の徹底 ○悩み相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育全体計画の検証 ○命を大切にする観点からの授業実施 ○生徒・保護者への広報・啓発 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本地震の災害支援・復興に向けた様々なボランティア活動で、自他を尊重し思いやる心を培うことができた。 ○課題として、全ての領域・分野で継続した取り組みが必要である。
いじめの防止等	安心安全な 学校生活	いじめを生まない土壌づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止等対策へ向けた組織体制の確立 ○重大事態対応マニュアルの職員への周知 ○保護者との連携強化 ○いじめの未然防止と早期発見 ○SNS被害防止への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止等対策委員会の定期開催 ○年2回職員研修の実施 ○保護者集会で啓発 ○家庭訪問及び定期的な個人面談週間の実施 ○いじめ実態把握調査の実施(6月、12月にアンケート実施) ○情報の共有化 ○スクールカウンセラーによる教育相談の活性化 ○SNS被害防止のための講演会や全校集会での啓発 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小委員会を2回、委員会を2回実施。いじめ認知も積極的に行い、年次・担任と連携し早期対応に努めた。職員研修も定期的の実施できた。 ○保護者への啓発としては翔陽メールや配布プリントで伝えることができた。 ○心のアンケート及び個人面談月間の実施により、生徒の現状把握といじめの未然防止・早期発見、早期解決に努めた。 ○スクールカウンセラーや教育相談職員、養護教諭、担任との生徒の情報共有等の連携をとることができた。

保健管理	健康教育	健康な体と豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察の充実 ○性教育及び薬物乱用防止教育の強化 ○よりよい生活習慣の推進（特に歯科） 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察の結果を基に教育相談等と連携し、対応について話し合う（週1回実施。確実な記録） ○薬物乱用防止講演会全体1回実施 ○保健委員会で取り組み、文化祭で発表する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○健康観察により、欠席、遅刻が多い等、気になる生徒を早期に気づくことができている。年次、教育相談と継続して協力し、対応していく。 ○性教育、薬物乱用防止教育講演会を実施、生徒は真剣に講演会を聞いていた。 ○翔陽祭では保健委員会で展示を行い、受診率は30%を超えた。日頃の歯みがき習慣など、継続して歯科指導を行う必要がある。
教育環境整備	安全管理	救急救命職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○救急救命の実技講習計画と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急時のフローチャートに沿ってシミュレーションを実施 ○エピペンについて職員へ周知 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本地震で延期開催の講習会となったが、その必要性を強く認識でき成果が見えた。職員研修でエピペンについての周知も行った。
		施設設備の安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ○安全点検の月1回の確実な実施 ○危険箇所への確実な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○点検結果をまとめ、回覧し、必要に応じ全職員へ周知する ○生徒指導部・保健部と事務部とが連携して対応する 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本地震後で被害箇所も多くあり、今年も細部にわたり確実に実施でき、関係部との連携もはかれ安全管理の一助となった。
		ハザードマップの作成	<ul style="list-style-type: none"> ○美化委員会活動で確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内危険箇所をマップ化して報告 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○熊本地震により危険箇所の確認がより効果的に実施することができた。
学校版環境ISOの推進	環境美化の徹底と環境問題への意識高揚	<ul style="list-style-type: none"> ○5S活動の充実 ○ゴミの減量化 プラスチック完全分別による可燃ゴミ重量昨年比10%減少 	<ul style="list-style-type: none"> ○プラスチックゴミ分別の徹底 ○校内美化コンクールの実施 ○「美化だより」発行 ○生徒美化委員会活動の活性化 ○掲示物等の活用 ○ゴミ持ち帰り活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○美化委員と職員の徹底した分別指導により、効果的かつ意識高揚に繋がった。美化だよりも定期的に発行した。また、可燃ゴミ重量は昨年度より減少できている。 	
保護者・住民との連携	学校行事を通じた連携	学校行事等の開放と交流	<ul style="list-style-type: none"> ○育友会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一役活動（翔陽祭、長距離走大会、登校指導、校外補導等） 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○バザーや豚汁会など熱心に参加していただいた。生徒にも好評であり、保護者と学校との連携がとれた。今後は、登校指導等の参加者増が課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> ○同窓会との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校支援、登校指導、後輩への激励 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校に直接来校して協力いただいている。 ○周年行事も終わり、新しい体制で同窓会が動き始めている。今後、よりいっそう協力していきたい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○翔陽祭での物品販売 ○親子乗馬教室 ○地域花壇の管理 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○育友会での物品販売は盛況であった。 ○例年通り大津町内の小学生を中心に乗馬体験を行い好評であった。次年度も実施予定。 	

			○近隣の室小学校・大津支援学校との交流及び共同学習	○農作業体験学習 ○共同学習	B	○学校周辺の環境整備に貢献できている。今後、夏場の除草作業をどのように行うか検討が必要である。 ○室小学校との交流学习で、野菜の栽培・収穫を行っている。生徒・児童ともに笑顔が絶えず、収穫物を喜んで持ち帰っていた。 ○大津支援学校との交流があまり出来なかった。
保護者との連携	学校理解の推進	○保護者会等への出席率向上 ○保護者への連絡の徹底	○保護者のニーズと学校の思いを考慮し、内容の充実を図る ○学校安心メールの活用	B	○今年は震災の影響で総会が出来なかったが、他の行事には参加いただいている。 ○メールシステムを新しいものに変え運用している。今後いっそうの活用に努めたい。	

4 学校関係者評価

学校関係者（本校では教育懇話会委員）の方々に、地域の行政・教育や企業の立場から、「学校運営」「学力向上」「保護者・住民との連携」などについて多くの示唆に富む意見をいただいた。「目標をできる限り数値化することで、より客観的な評価につながる」などの提言をいただいた。また、前年度同様「家庭学習の定着が不十分である。家庭及び小・中学校との連携も重要である。」との提言もいただいた。総じて、地域と連携したキャリア教育の取組等に対して高い評価をいただくとともに、地域に根差した特色ある学校づくりに対して理解を示していただいた。今後も引き続き、積極的な情報発信等を通じて、地域に信頼される学校づくりに取り組んでいくことを確認した。

5 総合評価

- (1) 学校教育目標 : 地域社会に貢献できる人材の育成を目指して、キャリア教育に対する組織的な取組を実践することができた。
- (2) 重点目標 : 総合学科の特性を生かし教育活動の工夫改善に努め、規範意識の向上やキャリア教育、人権尊重の精神の育成などに取り組むことができた。
- (3) 自己評価総括表 : 学校経営においては、熊本地震による阿蘇地域からの志願者減少という懸念を学校全体で共有し、前年度以上の志願者確保に向けた取組を実践することができた。結果的には、特に前期（特色）選抜において、更に志願者を増やすことができた。また、デュアルシステムを新たな系列でも実施したり、アクティブラーニング型授業の定着に向けた組織づくりを行うなど、現状維持に留まることなく、常に新たな取組を積極的に導入するなどして、学校の活性化を図ることができた。

6 次年度への課題・改善方策

- (1) 熊本地震を教訓に、普段から地域と連携した取組を積極的にすすめ、防災型コミュニティスクールの体系づくりを行う。
- (2) 総合学科の特性を生かしたキャリア教育の更なる充実を図る。
- (3) 学校評価計画に掲げる評価項目において、できる限り達成基準を数値目標化するなど定量化することで、中間検証や年度末反省においてより具体的に分析し改善策を提示し、継続的な取組となるようにしていく。
- (4) 家庭学習の習慣化を基盤とした学力向上の具体策を策定し、引き続き、生徒の進路保障の実現を目指す。
- (5) 業務の効率化と教職員の負担感軽減を図るために学校改革の視点を入れる。